

「海を楽しむ」ガイド養成教室

宮古支庁農林水産振興課
水産係 祝嶺浩之・石川貴宣

1. 目的

近年、青少年においては「総合学習」、高齢者においては「生涯学習」に代表されるように、例えば海に親しみながら、漁村に蓄積、伝承されてきた多様な技術や知識、文化を習得しようとする体験学習などの需要がますます増大することが予想される。

一方、海や浜辺をとりまく自然環境は、赤土流入など年々悪化するとともに、海を利用する人のマナーの低下やルールへの認識欠如は漁業者の生活を圧迫し、健全な利用者にも大変に不快な思いをさせている。

そこで、元気な漁村づくり推進事業の予算を活用し、修学旅行生や観光客といった都市部住民に地域（池間島）の豊かな海・自然を紹介する観光ツアーガイドの養成教室を開催することで、環境保全、水産資源保護、海・漁業のマナー・ルール等に対する理解を広く一般に浸透させるとともに、池間島住民と都市部住民の交流を促進する「海を楽しむ」ツアーの実施を目指し、漁村の活性化を図る。

2. 受講生

- ・漁業者 5名
- ・ダイビング業者 3名
- ・遊漁船業者 1名
- ・その他地域住民 6名
- ・都市部観光客 2名

3. 日時

講座：平成14年3月15日（金）19：00～

実習：平成14年3月16日（土）12：00～

4. 場所

講座：池間島離島総合センター

実習：池間島周辺リーフ及び砂浜「イラブサラハマ」（地域の呼称）

5. 講師

講座：(株)沖縄環境分析センター室長、宮古支庁農林水産振興課林務係主任、水産係主事

実習：(株)沖縄環境分析センター室長及び研究員

6. 内容

講座：

- ①「豊かな海は豊かな森から」（宮古支庁農林水産振興課林務係主任 宇地原健志）
全国においては漁業者による植樹事業が32ヶ所も行われている現状を紹介した上で、環境保全の観点から海に及ぼす森林の働きの重要性を説明した。

- ②「海のきまりごと」（同課水産係主事 祝嶺浩之）

水産資源の保護及び漁業者の生活安定を図る観点から、海には様々なルールがあることを共同漁業権及び漁業調整規則の説明を通して周知を図った。

- ③「ガイドの心得等」（(株)沖縄県環境分析センター室長 上原敦）

実際に沖縄本島において修学旅行生の環境学習の受け入れを行っている立場から、彼ら都市部住民がどのようなものを地域に求めているのか、また地域の持つ魅力を紹介する手法や両者の交流を促進する手法を説明した。

実習：

漁船を用船し、池間島周辺の地形やリーフ、植物などを海上から観察した後、砂浜「イラブサラハマ」に場所を移し、修学旅行生のガイド方法などを実習した。

実際にガイドの経験がある講師上原氏によると、修学旅行生といった若い世代には最初に興味を持たせることが重要であるため、紙芝居等の使用も有効であるとのことであった。

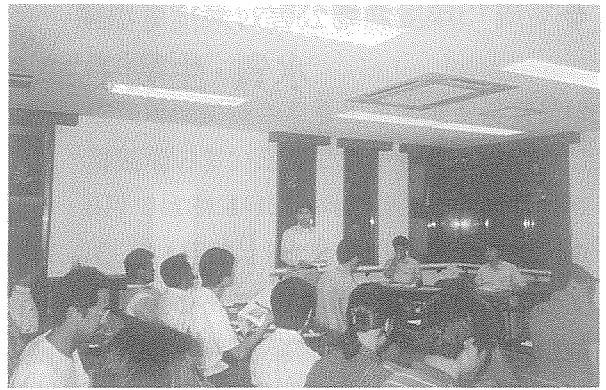
また、地域の人々が当たり前のように見ている風景全てが、都市部住民にとっては新鮮に感じられることを強調し、星砂の発見やその砂がサンゴのかけらであること自体が彼らにとっては驚きであるとの説明を受けた。

さらに地域の漁業者（池間漁協所属の漁業指導士）によるウミガメの卵や流木の説明も交え、非常に有意義な実習となった。

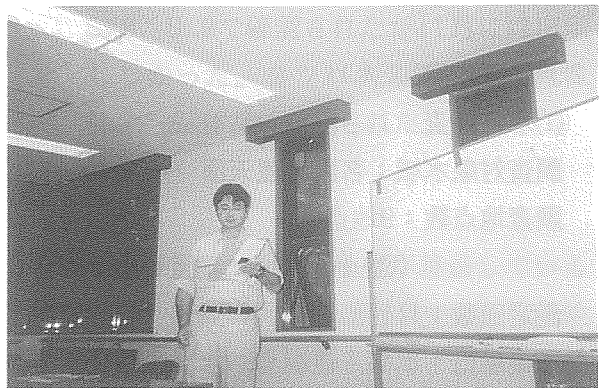
7. 所感及び課題

終了後、受講生から同様の研修会を継続して開催するよう求める声が相次ぎ、地域の活性化に対する住民の意識が向上したと思われる。また、当養成教室を通して、地域住民が改めて地元の豊かな海・自然を再認識できたよい機会になったと思う。

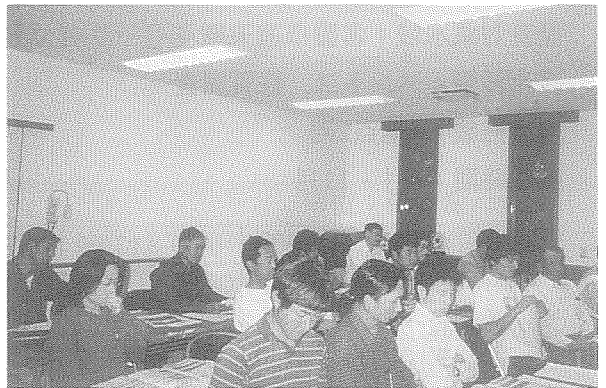
しかしながら、実行委員会的な組織化への取り組みや他の住民へのコンセンサス等、課題は多いため、今後も地道に同様の教室を開催するほか、都市部住民のモニターツアーの実施や代表住民による先進地の視察等も有効と思われる。



講座風景①



講座風景②
(環境分析センター講師)



講座風景③